

## 第7回電気絶縁材料シンポジウム 開催にあたって

絶縁材料常置専門委員会  
委員長 犬石 嘉雄

早いもので、電気絶縁材料シンポジウムも本年で7回目を迎え、人間で言えば、学令期に達したわけであるが、内外に対して、我国に於ける絶縁材料関係の発表討論の場とし、確立した地位を持つに至ったと信じている。

本年も電気学会関係者、電気材料技術委員会、絶縁材料常置専門委員会及び、絶縁材料コロナ劣化、絶縁材料耐電界性、絶縁材料耐熱性試験法常置専門委員会の各位の御協力と参加者各位の御支援によって、9月17日、18日の両日にわたって、盛大に開かれることになったのは、御同慶にたえない。担当委員会を代表して、心から御礼申し上げたい。

今回は約50件ほどの講演申し込みがあったが、プログラム委員会ではほぼ全講演を採択することにし、これを2日間の会期でこなすためと、昨年度の試みの反響をも考えて、予め、本年度の重要課題として、テーマの提出されていた1. 空間電荷形成と絶縁破壊、2. 750～1,000KV機器・ケーブル絶縁材料、3. 絶縁材料電気特性への物理化学分析法利用、4. 絶縁劣化と加速試験、の4分科については、全面的にレポート方式を採用した。レポート方式の成否はレポートの的確な各論文の要点、問題点の提示にあることは勿論であるが、参加者が、これによって生れた討論時間を充分有効に利用されるか否かにかかっている。参加者各位の活発な御討論をお願いしておきたい。本年度の特別講演は3件に増やした。そのうち、2件は、米国G. E. 研究所のReed博士の油浸プラスチック絶縁に関するものと、Esso研究所のForster博士のポリプロピレン合成紙に関するものである。両博士とも米国絶縁会議（Conference on Electrical Insulation）の有力なメンバーであり、今後両国の絶縁研究の交流に、極めて有益であると考えると共に、両博士が我々の招待に応じて来日されたことに御礼申し上げたい。

今回は、さらに年来の宿願であった高分子学会との交流の意味もかねて、帝人の小沢博士に難燃性絶縁材料関係の特別講演をお願いすることになった。今後とも、我が国からも関連分野のそれぞれの権威者に特別講演をお願いするつもりである。

本年度の日本をとりまく社会情勢はまことに多難で、オイル・ショックの影響が日本産業全体に行きわたっている。しかし、日本の生きのびる道は外国からの輸入でない創造的技術の開発以外には考えられない。資源、エネルギー問題に直結する絶縁材料について、

基礎研究から開発技術までの日本全国幅広い研究者が外国からの著名な研究者も交え、一堂に会して、討論や情報交換を行なうことは、このような創造的技術の確立に、極めて貢献する所が大きいと信じている。

最後に、今一度、本シンポジウムをより良いものに育てるために、アンケートを通じての参加者各位の率直な御批判と講演に対する熱心な御討論をお願いしたい。

第7回シンポジウムに尽力された絶縁材料常置専門委員会の委員氏名は、下記の通りである。(敬称略、五十音順)

〔幹事〕 冢田正之、矢作吉之助

〔委員〕 井関 昇、岡本英夫、加子泰彦、金指元憲、川井栄一、河野照哉  
斉藤省吾、堺 孝夫、内藤克彦、能登文敏、原 仁吾、日野太郎  
松浦虔士、吉岡 浩

〔参加〕 阿部伸一、武 祐一郎、蓬郷章郎、永野宏郎、西松峯昭、芳賀 薫  
藤田英夫、森内孝彦、森山寛厚、山本武夫

〔幹事補〕 伊東宇一、田中祀捷

また、Forster、Reed 両博士招待に御協力頂いた下記の各社の方々に御礼を申し上げます。

昭和電線電纜株式会社、住友電気工業株式会社、タツタ電線株式会社、  
大日本電線株式会社、帝人株式会社、東京芝浦電気株式会社、  
株式会社 巴川製紙所、日新電機株式会社、日東電気工業株式会社、  
日本碍子株式会社、株式会社 日立製作所、日立電線株式会社、  
富士電機製造株式会社、藤倉電線株式会社、古河電気工業株式会社、  
松下電器産業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社 明電舎、 (五十音順)